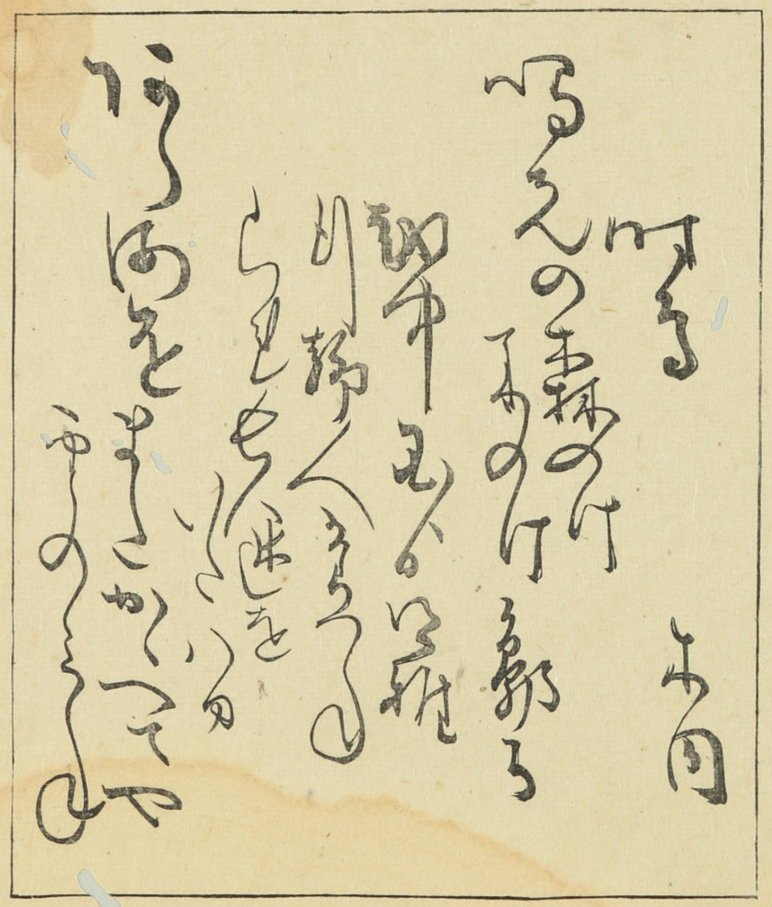
芭蕉門古人点蹟

北

白櫻望自筆發句二章　濃劔某氏寄進



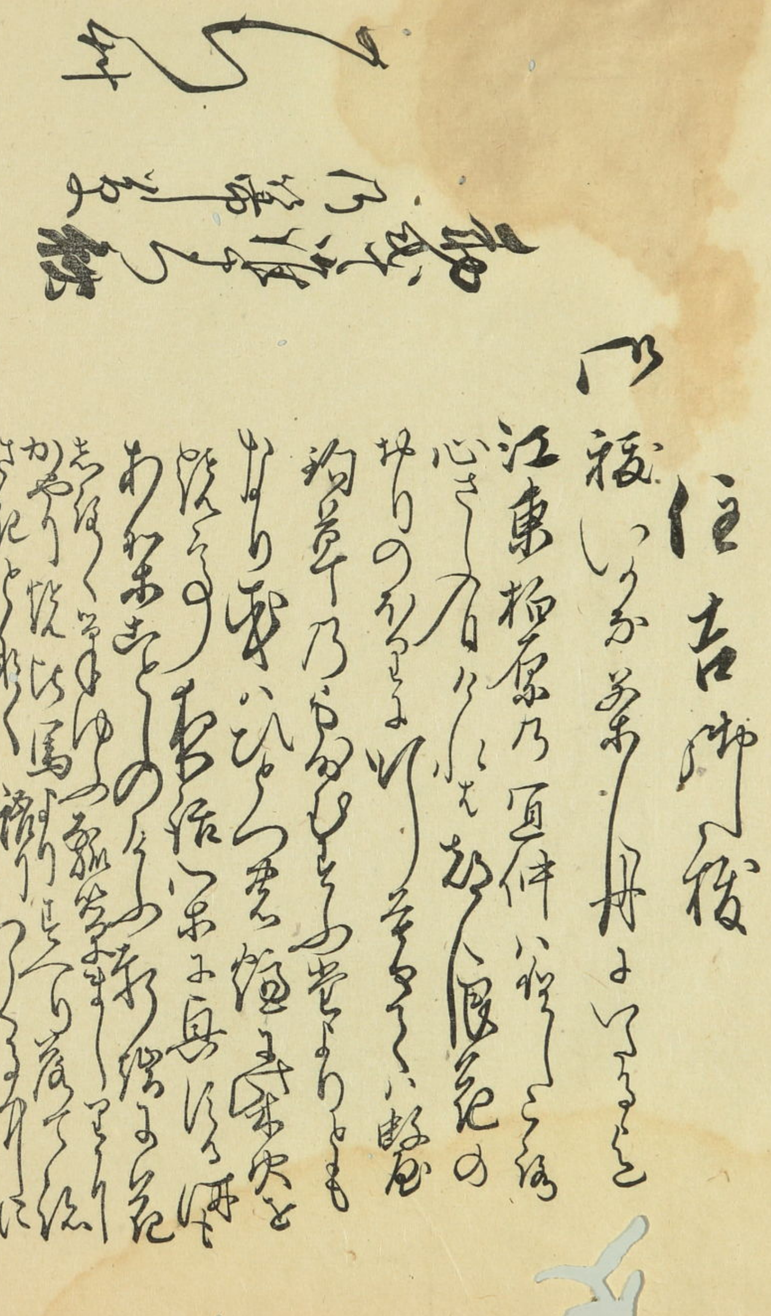
獅子老人真筆

足井遺史擦君里寄附

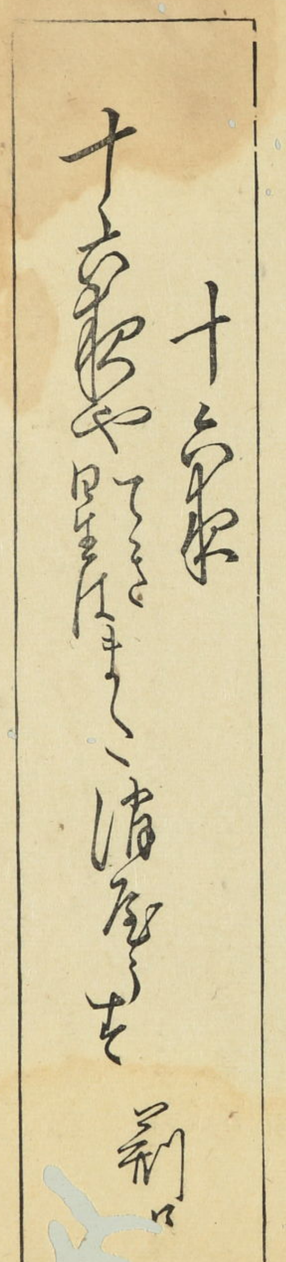
[illegible]

白毫寺[illegible]の[illegible]は[illegible]
はるかに[illegible]のすがたを[illegible]
[illegible]の門を敲き[illegible]
仕度の勤め事[illegible]煩禮謝
[illegible]桃李ハよく[illegible]
[illegible]を照し
[illegible]に

我[illegible]宮[illegible]の心なり
[illegible]乃[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]和因の[illegible]
[illegible]
[illegible]小藥王品乃[illegible]を
[illegible]
[illegible]



如行真蹟羇行一枚
美濃赤坂竹中蘭戸寄附



七夕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

美雪画

郭公松杉高みゆく川や水の底　跡乱

十六夜や　荊口
出るとも　鉄乱
名月や
松茸や　千川
芳れ茶ゟ　此筋

郭公　跡乱

濃州垣城下
六世庵甫寄附

和歌のよみしすゑへに鳴ならぬ声ほのほの
北條時子ありしまゝよゐよしつらね濱あかし川
撰者之人在
千

進門月空庵露川居士墨跡寄附
江州芭蕉堂
尾張佐屋釈白滝斎洗耳

お供のきぬぎぬ　越人

年ゆかし　三方よりの雪の中条り

如雪我面白く食ふ冬籠　陽堂

眼をたす　慶一鼎

霜降て芝の脇反を情ふ宮

童子孫をもち　唐梅嘉

蕉門越人墨跡奉納江州芭蕉堂

尾州佐屋駅旭天舎寄潮

撫の霜ふる元禄の初冬

先師
自笑花や梅の小まち
郷愁乃日風

会点乃道端ゆふ
巳陸ら昭
浙雪

高祖知足又帰寂照曾祖風和又帰蝶羽祖鉄叟
又帰亀世皆親受蕉翁之教沂風師来霈手澤
因藏諸茅仲寺裡芭蕉堂
天明三年癸卯春三月　鳴海學海識

七十にひゝかの里の古蓬とゝ
後寅ゆのとの白とゝ七十ノ賀
蓬莱のそゝ〳〵やゝ風し高ゝ　白雪

白雪筆

茅屋葉叢句

白雪末孫名河新城市四芦帆奉納之

あるつ星よ門さしらんて
世ゆ行ゆ沢よ有ゆ
杜國生涯の業績 ある山里に
参州吉田五東庵にて
寄附

文庫 藤本

盛久章者甚事哉當壽永乱盛
鳩杖詔世敬信我有年焉其功豈空乎今為汝自洛陽東山
清水寺邊来敢勿患矣幕下亦同夜夢老僧持水晶念珠携
削古地曽命曰盛久者平家世臣武略達人歌舞名客也往年侍於
公松内府北山游宴歌一曲雖東關遠(其名達東關)命久今日為我當歌
焉盛久拜伏曰難辞是貴命難得是明特臣遇此時忝此命古
今未聞之幸也何敢辞耶遂(速)奏一曲也其歌專雅鎌倉繁

榮賀幕下延齡世以為盛矣嗚吁甚哉人之好怪觀音者告怪
夢勸無道行幕下者信怪夢祿不忠臣盛久者喜怪夢喜怪
共不載矣雖世人有奇怪夢玩不善章何夫如此乎於是兼時正禁尼
坐告曰爾盛久聞謹我言於泉下爾友忠七兵衛尉景清者義勇
敢無欲者然平軍大敗平將已囚景清獨欲復讎潛入深潛入於
所在源軍捕其身(閑其身囚自代)景清聞自見代曾下獄嘗信清水寺觀世
音觀音憐其忠孝共合力使景清破獄脫去而以來或在庆為呵
嗟身為癩或微服潛行窺幕下於南都及鎌倉數謀數露再
為源軍捕然幕下感其忠信無加刑也景清鎌倉(術盡)不已術既尽
無如何焉憎目徒見於源氏自為盲去平向州又同友有瀨尾太郎
兼安者平家征木曾日赴于北越為倉光二郎成澄捕木曾識

其勇士許為臣瀨尾伴諸兵後年木曾伐平家於山陽兼安請
為先登到備之前州先殺成澄矛三郎成氏忽飯于平家驅衆旧臣及
三備之軍卒支木曾兵於篠迫戰成澄於板倉川得甚首兵
而后軍敗走于備中州兼安聞嫡子小太郎宗安未及面馬父(從半途)
子戰死於塲於其慈忠亦可則焉又有源廷尉義經妾靜者
廷尉赴奥羽之後因寓于鎌倉幕下之近臣梶原三郎景茂設酒
看尉心靜於旅館密通艶言靜忿怒涕泣辱景茂兵靜元
有歌舞名幕下欲見之數召不應幕下夫人重令靜勸
舞兼有愛憐不得停赴于霸囲神庭幕下悅与夫人(見鎌倉之諸侯大夫士庶人無不歎覓)靜敢不恐懼登其壇
舞且歌二章一章慕廷尉離別而不(不謂鎌倉)

繁榮幕下大怒無幕不見衆人皆懼靜當刑矣夫人
為謝曰昔日大君戰平軍於土肥相山盡軍不漂於總房
幕下時安逆在于足柄山其愁子彼岡無請勿罪焉其使
貞操可見矣不如而已鈴木三郎重家者欺赴于高館伊藤九
郎祐清者辭般于京師共得其死然是數人者爾同世人
也咨爾幸免死何不習義於景清忍為臣何不習謀於
兼安不得已歌何不習早於靜乎靜者岐女況於武臣
耶重家者一旦臣叛於世臣於爾與何誅已而評曰觀
音及幕下所救皆忠信之人而如盛久佞奸者也或曰善
惡平等不洩於一切衆生是佛慈悲也觀音豈無救盛久

乎答曰然我聞之佛尊者遇惡而能善未聞助不善而增惡者
觀音何為救焉又考東鑑及源平軍記平家臣無主馬判
官盛久別有主馬判官盛遠而無其事也此知後人撰作
矣作之者何人乎此之可謂真盛久而已

洛東遠民冨二郎藤原兼時著

玄朱不美弥益久傳　市厚子著附

捨舟乃
うちそとこほる
入江かな

凡兆

凡兆色紙 捨舟乃
香貫氏家寳珍わミ(と)　蟹夢
色紙當寺の文割と云

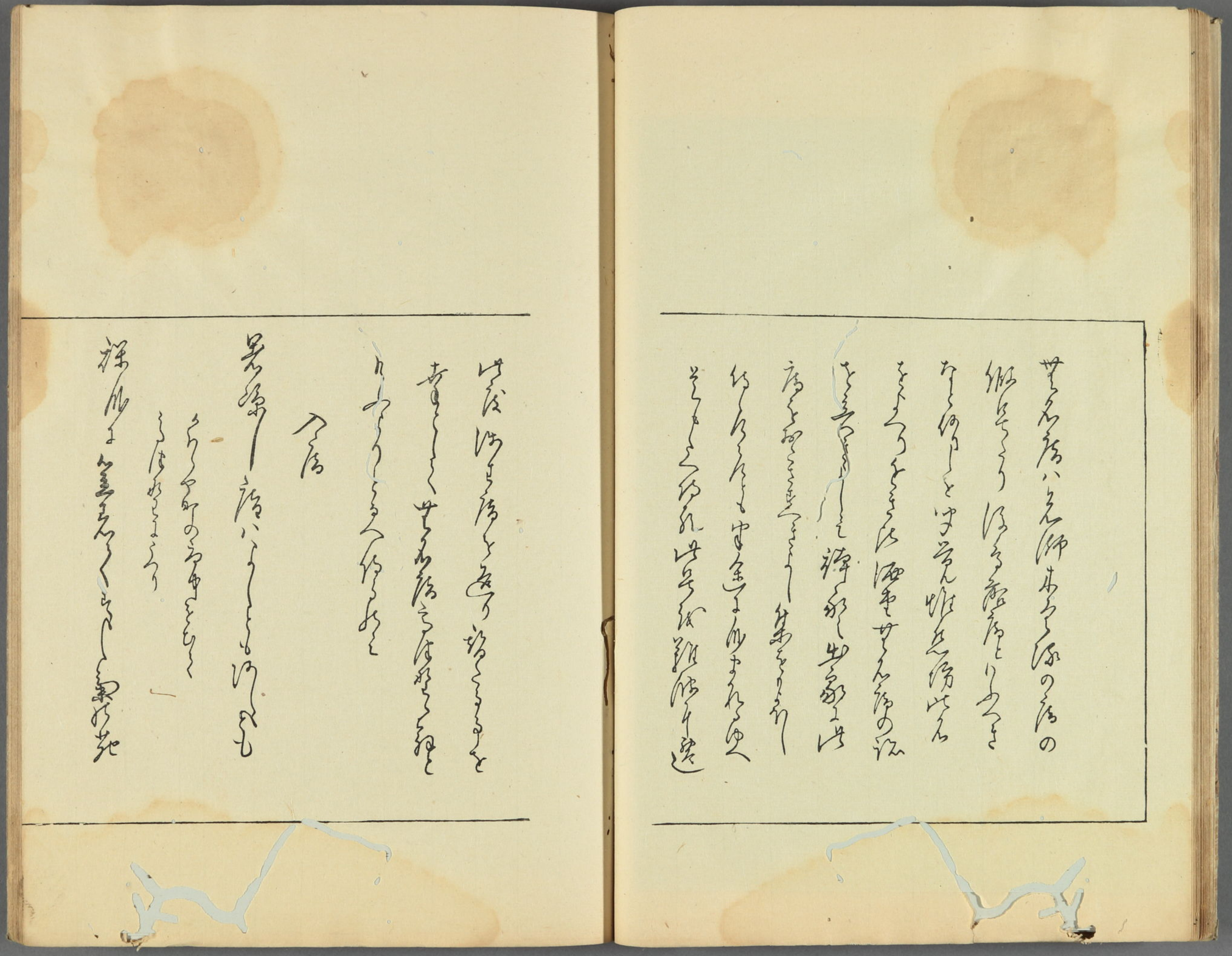
是花も其家に咲里

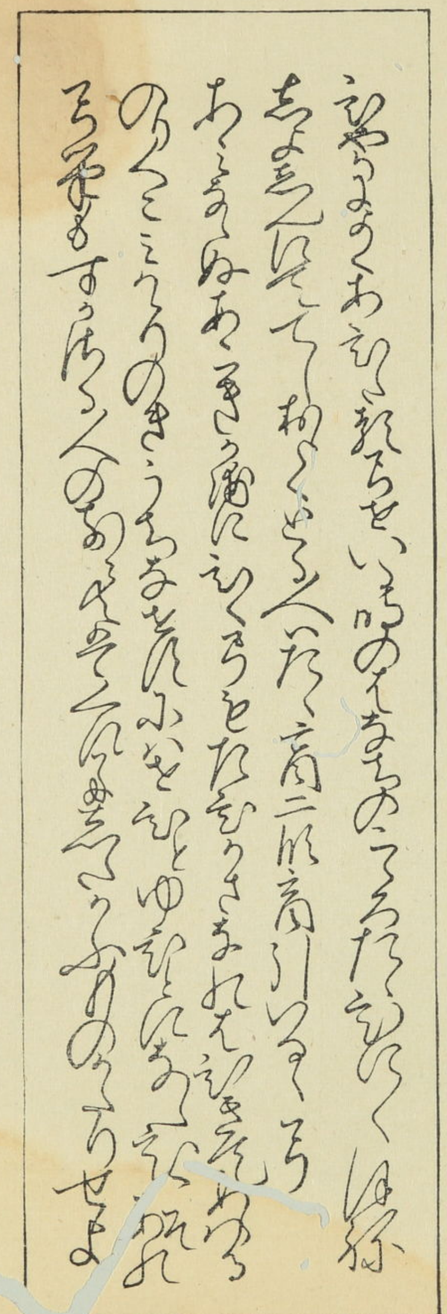
滝移窓

百川

其角能後句切一枚
拵頃置是其件本斎跡

六條大人
影附





曽良賢翁宗呂屋士墨痕　弓法和歌五首

施主信州諏訪住人宮坂自徳寄進

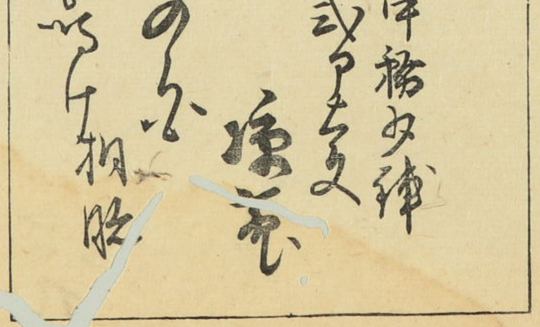
つばくろや
ゆきあかの
みるもの
る

舍羅函讃
浪花大江四國納

何のその梅の花

梅花佛惟焚師筆　寄附

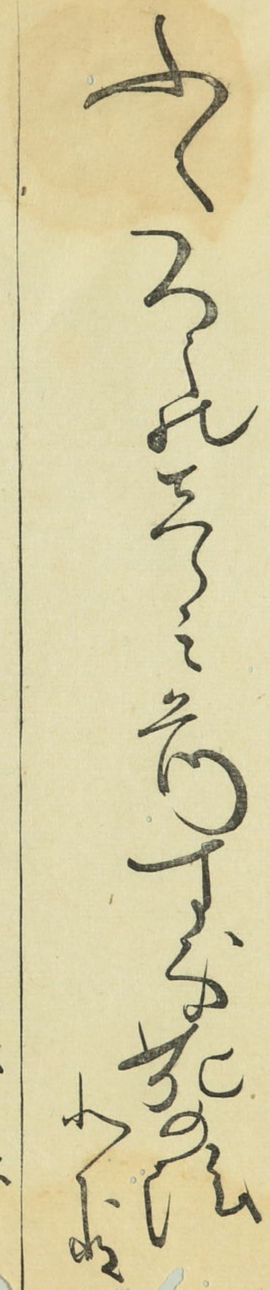
播磨丹頂山



寄附

神風鏘涼菟真跡　宇佐八幡宮

東鄕山　神子板浅利



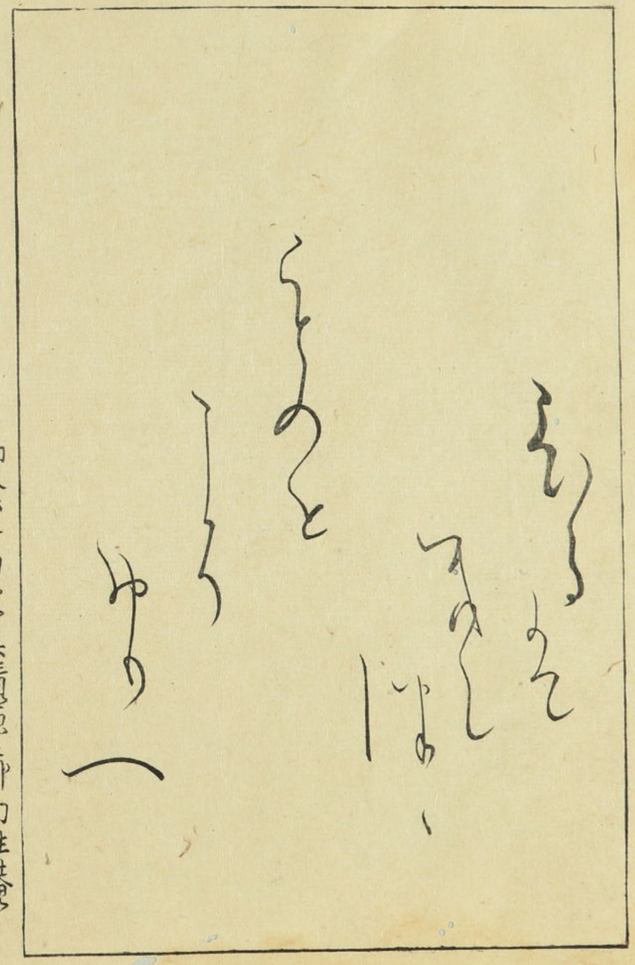
ぬうみそれ者もろうゝ　空の林

寄附翠嵐小枝玄路
加賀国之

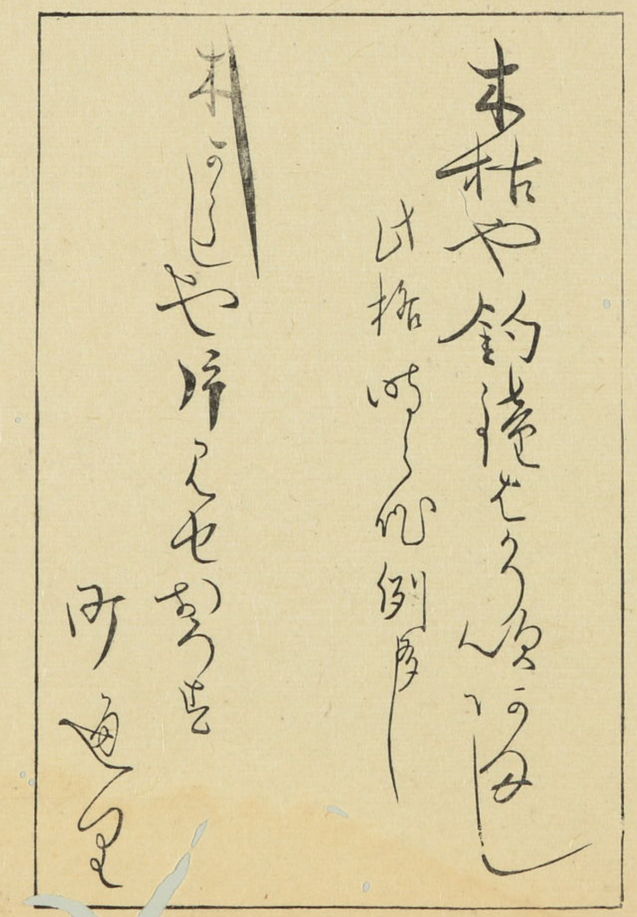
秋之坊蔀玄真蹟　加賀　一匹

手弱やたゝや小舟る紙子世乃長　加賀金沢住小枝氏　五笑

加陽金城住小枝一笑之末葉　二笑



柳陰軒句空真蹟原節幻住庵
既白之物而既白先故以故今為義
仲寺之什　平安　雲羅



浪苍公木枯眞跡
其角評　越中蜑臥寄附

蘭の花
金魚ふるふる
ゆら葛

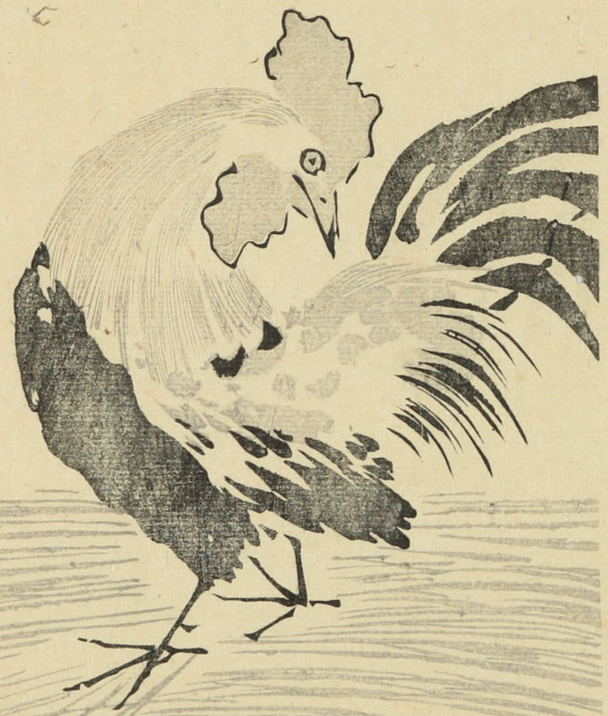
其角

栗津義仲寺住持沂風上人廣募蕉翁門
下諸子手蹟集而裝之長為寺中寶余亦
捨家藏其角書一紙以充其數

武藏夏成美書

心茶毘やかしまし侍る竜心院
殿の御ことを聞て新庄御殿
様より哀傷の為日ごろ
ものしたまふ雪中庵
雪中庵蕉翁聖霊
日次手稿出来
三世雪中庵
義太

卯年一月鶏之画賛を附
武州河越
二月廣麦稿



鶏は
神明の
眷属の
稲荷

杉風

杉風自筆屏形短冊
義仲寺
安永八年　今
杉風

奇特撰集中賀
年令月御遍交
令繕

一端　嵐竹

沂樹　一筋　山店

扇　一箱　史邦

神鳴の父子の絵と扇の那

瓜　一瓶

芋殿のむとしたる白瓜の那

鄭　一桶　嵐竹

巻柏とくさ流れうもれ

麻上酒　一樽　史邦

なくしみれ世々家さわ光西

望

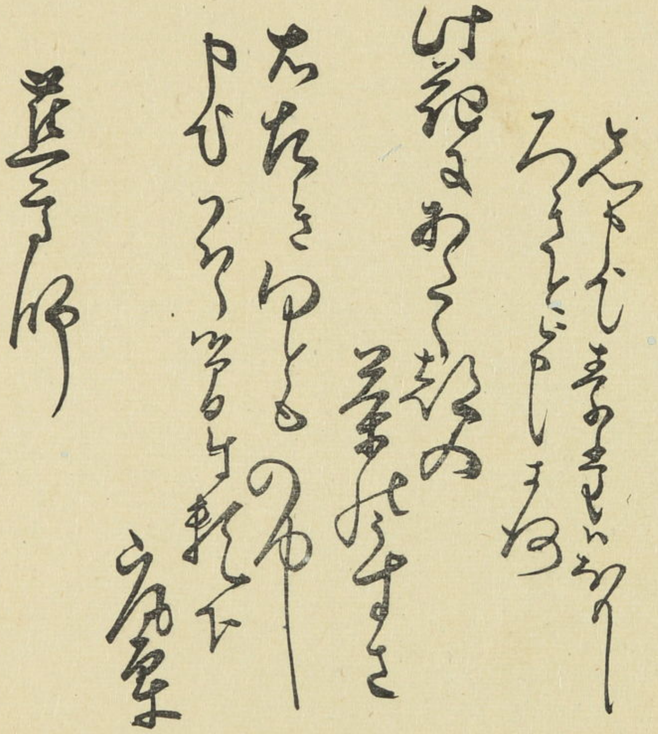
六月日　史邦

書面

旅六面牧丈

史邦筆之稿

湖東葛籠町　引牛



園女[illegible]
いつ[illegible]
寄附

江都深川住
松本尼古友

蛙合ハ
尾い[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鮫足

鮫足短冊
尾[illegible]
寄附

江都深川住
橋本泰里

拾朱子物語

遊艇從僕

夢中歌夢傳多案

夏夢多醒話錄

本草書

武藏淺草　夏陽子寄附

門弟録

庚午冬　菊乃洞露沾

因藤下野守政榮

遊園堂露沾短冊

菊乃洞

臣

露寧

寄附

奥書

芭蕉翁遷化ありて俳諧の正法うせしより既に
九十年乃春秋を歴ぬるまゝ今は時も世道の
像法の時移りもやいたるか蕉翁の寫瓶
傳燒乃門人といへとも其数白のゝ芋ゝ
ゆゝしきまでに筆記をなるこまもなり況や今より
すゑ乃芋ゝ世人好士たりとも何ぞとゝく

その主乃名称といふみんをのをとゝ多くは年月をへ
つゝてまた蕉翁のうまれ給ひし伊賀乃國の
藤堂家をゝめ藩をゝめ近江のくに伊勢
の尾張の行脚の由ゝある家乃武藏野をゝ
まゝその子孫は家乃ゝ八第子の門をゝ孫姪なる筆
の記をかゝゝ寄附せゝめ當世乃什物とす
後世人をして乃真芋乃遠ゝ見ひなをゝ心かゝ

寺に住持の僧ちこま庵堂寺然なるものや
一石一本をうりになさんハ住吉の茅にあらざるし
るべしれのまうさ孝婆ゑとうまつり給へ〳〵
天明二年寅十月時雨會於義仲寺芭蕉堂前
蝶夢幻阿弥陀佛謹誌 ハ

寛政元年己酉春發行
粟津義仲寺藏 ハ
井筒屋庄兵衛
橘屋治兵衛
同 儀兵衛
皇都書林